

長野県地球温暖化対策戦略検討会

第3回 産業・業務タスクフォース会議 議事要旨

日 時：平成 24 年 8 月 23 日（木）
 午前 9 時 30 分から正午まで
 場 所：県庁 温暖化対策課執務室
 出席者（敬称略、順不同）：計 5 名

< 長野県 >

所属		職名	氏名
環境部	温暖化対策課	企 画 幹	田中 信一郎
		温暖化対策係長	柳原 健
		主 任	若林 剛

< 委託事業者 >

所属	職名	氏名
中外テクノス株式会社	課 長	松尾 仁
	主 任	宮崎 雅郎

1. 概要

事業活動に関する地球温暖化対策計画書制度について意見交換をした。

2. 基本的方向

会議における「基本的方向」を表にまとめた。

表 会議まとめ

議題	基本的方向
自動車の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・軽自動車は対象に含め、二輪車は含めない。 ・リース車両等は貸手ではなく、借手である使用者に報告義務を課す。 ・対象とする自動車は道路運送車両法により定義する。 ・車種別の排出量、及び次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車など）の導入台数の報告を求める。
電気の排出係数	<ul style="list-style-type: none"> ・本制度で使用する電気の実排出係数は、電力事業者によらず、県が指定する係数を使用する。 ・電力事業者を変更したことによる排出量の削減は、クレジット相当量として取り扱う。 ・上記クレジットは、当該年度の実排出係数が一定値以下である場合のみ計上可能とする。

<p>計画書の記載項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の項目については、個別に記載項目を設ける。 ノーマイカー通勤 従業員以外の者の交通に関する配慮 物流対策 環境マネジメントシステムの導入状況 ・報告を求めるガスは、エネルギー起源 CO2、自動車起源 CO2、5.5 ガスとする。制度への該当基準はガスごとに設定し、いずれかのガスで該当基準に該当した場合には、全てのガスについて報告を求める。
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の取組み（例えば、基準年度以前の3年間程度における設備更新など）を第一計画期間の評価に含める。
<p>重点対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重点対策の項目及び判断基準を整理する。
<p>計画書の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間の途中で該当基準に該当しなくなった場合にも、計画期間が終了するまでは報告の義務を課す。 ・個別票（事業所ごとの計画）は、基準年度に該当基準に該当した事業所に求める。事業者としての報告義務と同様、計画期間の途中で該当基準に該当しなくなった場合にも、計画期間が終了するまでは報告を求める。一方、計画期間の途中で該当基準に該当した事業所には、個別票の作成は求めない。

長野県地球温暖化対策戦略検討会

第3回 建築部門タスクフォース会議 議事要旨

日 時：平成 24 年 8 月 22 日（水）

午後 13 時 30 分から午後 16 時 00 分まで

場 所：県庁 温暖化対策課執務室

出席者（敬称略、順不同）：計 11 名

< 外部有識者 >

所属	職名	氏名
NPO 法人 新木造住宅技術研究協議会	長野支部事務局	丸山 淳治

< 委員 >

所属	職名	氏名
有限会社 和建築設計事務所	代表取締役	青木 和壽
一般社団法人 日本エネルギーパス協会	理事	今泉 太爾
社団法人 長野県建築士会	理事	宮下 正一

< 長野県 >

所属	職名	氏名
林務部	県産材利用推進室	主査 清水 直樹
建設部	住宅課	担当係長 塚本 哲
	建築指導課	主任 三宅 隆徳
環境部	温暖化対策課	企画幹 田中 信一郎
		温暖化対策係長 柳原 健
		担当係長 宮澤 文夫

< 委託事業者 >

所属	職名	氏名
中外テクノス株式会社（東京支社）		中村 理志

1 . 概要

建築物の性能を評価する指標として利用可能と考えられる4つのツールの概要、メリット、デメリット等について関係者にヒアリングを行った。

2 . 評価指標の種類

- (1) QPEX
- (2) ネット・ゼロ・エネルギー化推進事業
- (3) CASBEE 戸建・新築
- (4) エネルギーパス

3. 質疑応答

各説明時における質疑応答および参考意見を表にまとめた。

評価指標	区分	内容
(1) QPEX	質疑 応答	<p>Q. 壁または屋根の熱貫流率等の計算について、柱の幅によって数値が変わってくるが、どのように対応しているのか？</p> <p>A. 熱橋面積比率（熱橋になる部材の面積比）で対応している。一般財団法人建築環境・省エネルギー機構（以下、IBECという。）と同様である。</p> <p>Q. 木材の熱抵抗値について、固定値を使用しているが、使用する木材によって数値を追加できるか？</p> <p>A. 建材の追加は可能である。</p> <p>Q. 評価指標の普及のために、できる限り簡略化したいが、それは可能か？</p> <p>A. 長期優良住宅に対応する必要があるため、簡略化することはできない。</p> <p>Q. 日射利用効率 0.8 の数値根拠は？</p> <p>A. AMEDAS データから算出している。</p> <p>Q. 暖房システムの効率仕様値を使用するのか？</p> <p>A. 基本的には仕様値を使用するが、実測値も使用できる。</p> <p>Q. 暖房システムの効率の仕様値と実際の値は大きく違うと思われるが、使用する値は仕様値をそのまま使用してよいのか？</p> <p>A. ドイツでは、性能評価の算定の際に、国が指定する係数を使用している。日本では、性能評価の算定の際に使用する係数を指定していないが、国の実験により仕様値と実測値との比を算出している。</p> <p>Q. 長野県では、QPEX を利用している工務店はどの程度あるか？</p> <p>A. 新住居の会員のみが使用している。現在はまだ 100 以下である。</p> <p>Q. QPEX のバージョン改定の頻度はどの程度か？</p> <p>A. 頻繁に行われている。</p> <p>Q. 国の方針には対応しているのか？</p> <p>A. 申請に対応することを目的としているため、国の方針に対応している。</p> <p>Q. 長期優良住宅の申請をする人が利用することが多いのか？</p> <p>A. そのとおりである。</p> <p>Q. 講習 1 日でツールを使用することができるのか？</p>

		<p>A. 基本的には1日の講習で使用できる。後日質問を受け付けることでフォローしている。</p> <p>Q. 現在と異なる方法で県とタイアップして普及することはできるのか？</p> <p>A. 可能性としてはある。</p>
	参考意見	<ul style="list-style-type: none"> ・QPEX を使用して算定結果が出るまでにかかる時間は約1時間30分。(講演者) ・長野県材の熱抵抗値は他の建材と比べて高いことが実験でわかっている。(TF委員) ・QPEX の最新バージョンは2.75であるが、3.0 が現在開発中である。(講演者)
(2) ネット・ゼロ・エネルギー化推進事業	質疑応答	<p>Q. このツールを使用して施主とコミュニケーションをとれるか？</p> <p>A. 技術者向けであり、一般向けではないため、コミュニケーションツールとしては不向きである。 ただし、基本的な計算方法を学ぶためには、良い教材となりうる。(他のツールでは、自動計算されることを、自ら算定するようになっているため)</p> <p>Q. 評価ツールとして使用するのではなく、講習会の教材として利用する価値はあるのでは？</p> <p>A. そのとおりである。</p> <p>Q. すべての建築物に対応しているか？</p> <p>A. 対応している。</p> <p>Q. ツールに精通した者が使用して算定結果が出るまでにどの程度かかるのか？</p> <p>A. 約1日</p>
	参考意見	<ul style="list-style-type: none"> ・換気条件は加味されていない。(TF委員) ・補助金の申請に対応しているため、より現実的な数値が出ることになる。(TF委員) ・U 値(熱貫流率(単位: $W \cdot m^{-2} \cdot K^{-1}$))の計算方法が国際的ではない。おそらくK 値(熱貫流率(単位: $kcal \cdot m^{-2} \cdot h^{-1} \cdot ^\circ C^{-1}$))である。(TF委員)
(3) CASBEE 戸建・新築	質疑応答	<p>Q. CASBEE はQPEX、エネルギーパスとは利用目的が違う(CASBEE はエネルギーだけでなくその他の環境に配慮する住宅を作ることである。)ので、評価ツールとして同列に考えることは難しいのでは？</p> <p>A. ツールの利用目的を明らかにして、使用者が選択できるようにする必要がある。</p> <p>Q. 2000m²以上の建築物で、CASBEE 以外に評価できるツールがあるか？</p>

		<p>A. エネルギーパスは可能である。</p> <p>Q. 講習会ではすべてのツールの説明を同時にするのは？</p> <p>A. ツールごとに講習会を開き、利用する工務店が選択して受講できる形式をとる。</p> <p>Q. 県内に CASBEE の資格者はどの程度いるのか？</p> <p>A. 300 程度いる。戸建に関しては、日本で一番多い。</p>
	参考意見	<ul style="list-style-type: none"> ・入力マニュアルに沿って行うため、簡単にできる。(TF 委員) ・CASBEE 新築ではスコア式と実数値入力を選択が可能。(TF 委員)
(4) エネルギーパス	質疑応答	<p>Q. 算定方法は、他のツールと同様の方法がとられているのか？</p> <p>A. 影響の小さい箇所は、簡略化しているが、算定方法は概ね他のツールと同様である。</p> <p>Q. パッシブの考え方は考慮されているか？</p> <p>A. 通風は考慮されていないが、概ね考慮されている。</p> <p>Q. IBEC で考えられているパッシブの方法とは違うのか？</p> <p>A. IBEC より基準を厳しくしている。</p> <p>Q. 内面の算定方法は、ボックスとして計算して、屋根裏等の計算を追加していく方法か？</p> <p>A. そのとおりである。</p> <p>Q. 他のツールでは、算定根拠が結果と合わせて出てくるが、エネルギーパスはどうか？</p> <p>A. 現段階ではできていないが、今後対応していく予定である。</p> <p>Q. 建築士免許をもつ者がどの程度講習を受ければ、ツールを使用できるか？</p> <p>A. ソフト自体は、すぐに使える。しかし、算定結果の正誤判断ができないと思われる。講習で、長野県の代表的な住宅では、どの程度の数値が算定されるかを示す必要がある。講習自体は1日あれば十分である。</p>
	参考意見	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーパスを使用して算定結果が出るまでにかかる時間は約1時間。(TF 委員) ・ツールの簡略化は可能である。(TF 委員) ・長期優良住宅等の申請には対応していない。(TF 委員)